パネラー

関口 陽一
北海道経済連合会
地域政策グループ　部長

「広域連携による住民が主役の豊富温泉活性化に向けて」

熱や化学成分による効果に加え、自然豊かな場所に滞在することにより日頃のストレスからも解放される温泉の体へのよさが、再び注目されています。特に、超高齢社会に突入した現代、健康によく、旅行も楽しめる温泉地は、高齢者にとって理想的な滞在先の一つと考えられます。

豊富温泉は、皮膚疾患への効能が特に高く評価されており、多くの湯治客が訪れています。また、豊富町には、サロベツ湿原や大規模草地牧場、ゴルフ場、スキー場をはじめとする自然豊かな観光資源があり、約 40 キロメートル移動すると日本最北端の稚内市に行くこともできます。そのため、豊富町は、地域の魅力を道でつなぐ「宗谷シーニックバイウェイ」や、外国人旅行者の地方への誘客を図るためにテーマ性・ストーリー性を持った一連の魅力ある観光地を交通アクセスも含めてネットワーク化する「日本のてっぺん。きた北海道ルート。」といった広域観光ルートにも組み込まれています。

住民の皆様が「宗谷シーニックバイウェイ」などの取り組みを通じて企業や行政と手をつなぎ、観光資源を生かした個性的で活力ある地域づくりに主体的に関わることで、皮膚疾患への効能が特に高く評価されている「健康づくりの場」としての豊富温泉の魅力だけでなく、住民の皆様が地域に対する思いを具体化できる「夢の実現の場」としての豊富町の魅力を高めることもできます。

温泉を最大限に活用しながら、「健康づくりの場」「夢の実現の場」としての機能を今まで以上に強化することで、温泉地が持つ資源や魅力を生かして地域の活性化につなげることが期待されます。

パネラー

齋藤 真由美
豊富温泉健康相談員
温泉利用指導者・保健師

今年開湯 90 周年をむかえた豊富温泉は、近年多くの皮膚疾患のお客様から注目を頂けるようになりました。特に他の温泉地と大きく異なるのは、これから日本を背負う力を秘めた 10 代から 30 代のアトピー症状に悩む若者が多数訪れる場となっていることです。様々な治療や各種療法に行き詰まり、豊富温泉での湯治に一縷の望みをかけていらっしゃいます。お客様の中には、全身に及ぶ皮膚症状のため身動きもようやくという方も少なくありません。また皮膚疾患は部位によって他者の目にさらされる苦痛や誤解も伴い、心への負担も大きいです。日ごろは半袖も着られず、温泉にも行けず…という方も多いです。それでも日を追うごとに動きもスムーズになり、うつむいていた顔をあげ、湯治滞在中に知り合えた方々と笑顔で時を過ごせるようになります。当温泉での湯治で全てが解決するわけではありません。でも、当地で湯治をしたことが一つのきっかけとなり、真っ暗だった未来に一筋の光が射し、新たなことに挑戦する方や、現在私が共に過ごす仲間のように当地で力を発揮してくれる若者も一人や二人ではありません。日本では湯治は医療としての位置づけでは無いこともあり、いまだ娯楽や休養というイメージが強く、当地にやっとの思いでいらして下さる方も、誤解を解消することに新たな心労を重ねています。ぜひ、当温泉が医療費控除対象施設となるだけでなく、全国の力のある各温泉の湯治が医療として認められることを切に願っております。

9/3 8:30～　日本の名湯百選 © 連携会議

総括講演「温泉ガストロノミーツーリズムの薦め」

小川 正人
ANA 総合研究所代表取締役副社長

豊富温泉の歴史

豊富温泉は、大正１４年の石油掘削の際、天然ガスを伴った温泉が噴出したことに端を発します。当時、４７ﾘｯﾄﾙ / 分だった湯量は、平成２８年現在では１５３ﾘｯﾄﾙ / 分まで増加し、泉温３０℃の温泉がホテルや旅館等各施設に配湯されて利用されています。当温泉地は、稚内市より南方約４０ｋｍ、豊富市街より東方約６ｋｍに位置することから、**日本最北の温泉郷**ともいわれ、地元住民の保養の場と観光客の宿泊中継地や湯治湯として発展してきました。

温泉地区は、最盛期には約１５件の旅館や民宿で賑わっておりましたが、現在は５軒のホテルや旅館等の宿泊施設となっており、内３軒が源湯を直接浴場に入れて営業している状況です。また、アトピーや乾癬の皮膚病患者の湯治湯として全国の湯治客から注目を集めている町営日帰り入浴施設「ふれあいセンター」があります。この「ふれあいセンター」は、昭和３３年「もとゆ館」として運営経営しておりましたが、昭和６３年に「もとゆ館」に代わる新たな温泉入浴施設として「ふれあいセンター」が新築され現在に至ります。

特異な泉質の象徴である石油成分に含まれるタール成分には、肌の炎症を抑える効用があると言われアトピー性皮膚炎や乾癬等の皮膚病への効果があることで注目を集めており、北海道内外から多くの方が来湯しています。「ふれあいセンター」には皮膚病湯治の方が他人の目を気にせずゆっくり入浴ができるよう、ぬるめの湯温が特徴である湯治専用浴槽も完備しており、全国各地から皮膚病湯治に来湯する湯治客の健康、自然志向に応えられるよう、環境整備と合わせて長期滞在をサポートする事業も行っています。

全国各地から湯治に訪れる国民保養温泉地　豊富温泉

平成４年１月に国民保養温泉地の指定を受け、アトピー性皮膚炎や乾癬等皮膚病湯治客の長期宿泊に対応するため、低価格の町営宿泊施設「旧湯快宿（７室）」を平成１０年に開設しており、平成２７年４月からは利用者増加に伴い廃業したホテルを町が買い取り、町営宿泊施設「新湯快宿（１９室）」もオープンしています。

また、温泉と共に天然ガス（メタンガス）が約６，５００㎥ / 日噴出していますが、これまでは使用量の多い冬期間でも約２，５００㎥ / 日しか使用しておらず、その大部分を空中放散しているのが現状でした。町としては、天然ガスを利用し温泉地域の特性を活かした新規事業の創出を行い、移住希望者及び長期湯治客に就労の場を与え、地域エネルギーを有効活用した地球環境に配慮する温泉地を目指しています。

©The Forum on Thermalism in Japan Printed in Japan

利尻富士　利尻礼文サロベツ国立公園

豊富温泉開湯 90 周年ー日本の名湯百選認定記念事業

第５回日本の名湯百選 © シンポジウム 2016

保養温泉地の挑戦ー日本最北の名湯への期待と課題

2016 年9月２日（金）３日（土）

北海道豊富町定住支援センター及び温泉自然観察館

【主催】NPO 法人健康と温泉フォーラム　北海道豊富町
【後援】環境省、全国市長会、全国町村会、地域活性学会、日本健康開発財団、日本温泉気候物理医学会、温泉療法医会、日本スパ振興協会、北海道宗谷総合振興局、北海道新聞社、宗谷新聞社
【協力】株式会社 ANA 総合研究所、ANA セールス株式会社

９月２日（金）シンポジウムと交流レセプション

14:00　開会式
14:30　基調講演「日本最北の名湯への期待と課題」
　　大塚 吉則（北海道大学大学院教育学研究院教授）
15:40　パネルディスカッション「温泉を活用した健康づくりと地域づくり」
コーディネーター　合田 純人（健康と温泉フォーラム常任理事）
パネラー　中島 尚子（環境省自然環境局温泉地保護利用推進室長）
　　工藤 栄光（北海道豊富町長）
　　関口 陽一（北海道経済連合会地域政策グループ部長）
　　齋藤 真由美（豊富温泉ふれあいセンター保健師）
17:00　宿泊券他抽選会
18:30　交流レセプション（ホテル豊富）

９月３日（土）日本の名湯百選 © 連携会議とエクスカーション

8:30　第５回日本の名湯百選 © 連携会議（豊富町温泉自然観察館）
コーディネーター　合田 純人（健康と温泉フォーラム常任理事）
連携温泉地代表報告
総括講演「温泉ガストロノミーツーリズムの薦め」
　　小川 正人（ANA 総合研究所代表取締役副社長）
閉会式
11:00　エクスカーション　（サロベツ湿原センター、稚内市内、宗谷岬他）